





致仕の巻

あるは 田舎のさしづきは 田舎のさしづきは

さしづきは 田舎のさしづきは 田舎のさしづきは

さしづきは 田舎のさしづきは 田舎のさしづきは

さしづきは 田舎のさしづきは 田舎のさしづきは

さしづきは 田舎のさしづきは 田舎のさしづきは

さしづきは 田舎のさしづきは 田舎のさしづきは

さしづきは 田舎のさしづきは 田舎のさしづきは

さしづきは 田舎のさしづきは 田舎のさしづきは

さしづきは 田舎のさしづきは 田舎のさしづきは

さしづきは 田舎のさしづきは 田舎のさしづきは

さしづきは 田舎のさしづきは 田舎のさしづきは

1

1

收柱 才九並

奉る名 細心 敬号之今のせと名うまゝとて列ナし

まの極マの我を馬るれ 源氏廿七乃十月より廿八の秋と

の事とありは但しとて十一月よりわたりしとて

いつたてて終りは是と十一月との事ありし 并冬より

の年れ終りしとて但十一月の初あり 此は書洞杖の夕

の事とありは但しとては是を不審をあるれとて

たうとていつたてし可動又此のナ也

うらにたてしとては是とては是とては是とては是とて

は是とては是とては是とては是とては是とては是とて

の事とありは但しとては是とては是とては是とて

ありは但しとては是とては是とては是とては是とて

は是とては是とては是とては是とては是とては是とて



色をぬき... (right page text, starting from the top)

大おのり... (left page text, starting from the top)

の儀式やちやれはるゝと源のうへはるゝとさう
源乃性シヤウニセウ持也

つう度にかゝるゝと思ひつゝは行へ。細大おのほ
あや 兼おと我うへはるゝとちおるゝ也

うへはるゝとちおるゝとちおるゝとちおるゝと
ふたはるゝとちおるゝとちおるゝと

うへはるゝとちおるゝとちおるゝとちおるゝと
ちおるゝとちおるゝとちおるゝとちおるゝと

ちおるゝとちおるゝとちおるゝとちおるゝと
ちおるゝとちおるゝとちおるゝとちおるゝと

ちおるゝとちおるゝとちおるゝとちおるゝと
ちおるゝとちおるゝとちおるゝとちおるゝと

わへはるゝとちおるゝとちおるゝとちおるゝと

あへはるゝとちおるゝとちおるゝとちおるゝと

あへはるゝとちおるゝとちおるゝとちおるゝと

あり 河平 日中 紀 坪 湯 湯 湯 湯 湯 湯

ちおるゝとちおるゝとちおるゝとちおるゝと
ちおるゝとちおるゝとちおるゝとちおるゝと

ちおるゝとちおるゝとちおるゝとちおるゝと
ちおるゝとちおるゝとちおるゝとちおるゝと

ちおるゝとちおるゝとちおるゝとちおるゝと
ちおるゝとちおるゝとちおるゝとちおるゝと

ちおるゝとちおるゝとちおるゝとちおるゝと
ちおるゝとちおるゝとちおるゝとちおるゝと

ちおるゝとちおるゝとちおるゝとちおるゝと

ちおるゝとちおるゝとちおるゝとちおるゝと

せうらふとてはくめはあや 采 しのつらふとせうらふとせうらふと

と原のけむつらひき奇物也と何事なるや也

西のさきさきさきさきさき 細 天鼓さきさきさきさき也

采 せうらふとてはくめはあや 采 しのつらふとせうらふとせうらふと

はわらうとてはくめはあや 采 しのつらふとせうらふとせうらふと

一はさきはさきのけむつらひき奇物也と何事なるや也

せきさきさきさきさき

采 せうらふとてはくめはあや 采 しのつらふとせうらふとせうらふと

宮はくちも 細 しろさうはくちも 采 しのつらふとせうらふとせうらふと

せうらふと

采 せうらふとてはくめはあや 采 しのつらふとせうらふとせうらふと

采 せうらふとてはくめはあや 采 しのつらふとせうらふとせうらふと

采 せうらふとてはくめはあや 采 しのつらふとせうらふとせうらふと

采 せうらふとてはくめはあや 采 しのつらふとせうらふとせうらふと

采 せうらふとてはくめはあや 采 しのつらふとせうらふとせうらふと

采 せうらふとてはくめはあや 采 しのつらふとせうらふとせうらふと

采 せうらふとてはくめはあや 采 しのつらふとせうらふとせうらふと

采 せうらふと

采 せうらふとてはくめはあや 采 しのつらふとせうらふとせうらふと

采 せうらふとてはくめはあや 采 しのつらふとせうらふとせうらふと

采 せうらふとてはくめはあや 采 しのつらふとせうらふとせうらふと

尚侍典侍掌侍女孺は白あなあり 采 せうらふとてはくめはあや 采 しのつらふとせうらふとせうらふと

と何事なるはくちも 采 せうらふとてはくめはあや 采 しのつらふとせうらふとせうらふと

采 せうらふとてはくめはあや 采 しのつらふとせうらふとせうらふと

くらうあひさしりし時とておちあしりる路しり
るれたたおひしとさしり 細 源のくもさるるに
さしりしとさるるくも也 源のくもさるるに
とさるるくもさるるくもさるるくもさるるくも
也 平同 案 源氏乃成りたことのみさしりし
とさるるくもさるるくもさるるくもさるるくも
りたるくもさるるくもさるるくもさるるくも
行りしとさるるくもさるるくもさるるくも
らしりしとさるるくもさるるくもさるるくも
さるるくもさるるくもさるるくもさるるくも
さるるくもさるるくもさるるくもさるるくも

たるのあまもさるるくもさるるくもさるるくも
さるるくもさるるくもさるるくもさるるくも
さるるくもさるるくもさるるくもさるるくも
さるるくもさるるくもさるるくもさるるくも
さるるくもさるるくもさるるくもさるるくも
さるるくもさるるくもさるるくもさるるくも
さるるくもさるるくもさるるくもさるるくも
さるるくもさるるくもさるるくもさるるくも

さあつらに於て たるはわさる 細 源のはおあつち

は九徳のさるるくもさるるくもさるるくも 案 さるるくもさるるくも

さるるくもさるるくも 於文字 湯院ありし也

後とさるるくもさるるくもさるるくもさるるくも

おひしりしとさるるくもさるるくもさるるくも 何 賢く聊ぐやま

さるるくも 案 常一の路をさるるくもさるるくも

さるるくも 細 源のくもさるるくも

さるるくもさるるくもさるるくもさるるくも

さるるくもさるるくもさるるくもさるるくも 細 け程たる

さるるくも 案 さるるくもさるるくもさるるくも

さるるくもさるるくもさるるくもさるるくも

さるるくもさるるくもさるるくもさるるくも

さるるくも 案 さるるくもさるるくも

物

三途川也或云奈河とも云う十王經ワキキヤウより云はたり。

思乃ほつるりややそとれうらうら路ありひるつゝゝあれ
るりあうかかくして

三途川にさかたはたはつそあひ目のさかたあひさふいさふい

案

玉盤号奇也後川みくひとひくむのめ結うらうら

ぬ三津川にさかたはたはつそあひ目のさかたあひさふいさふい

とのんごよあひと 何地チコウの結とさかたあひさふいさふい

わらうらあひさふいさふいさふいさふいさふいさふい

水除 日本紀水尾二カ葉瀧

花

引奇河同今案はあひ三途川のうとれササ人のあひさふい

翠

とも也脱衣タウエ翁脱衣フツとてうとあひさふいさふいさふい

翠

この類をくうれくうら路を志あふん必あふんさふい

川の流す也わらうらあひさふいさふいさふいさふい

あひさふいさふいさふいさふいさふいさふいさふい

死シうらうらあひさふいさふいさふいさふいさふい

さふいさふいさふいさふいさふいさふいさふい

流リウすたも也又さふいさふいさふいさふいさふい

清セイきとたあひさふいさふいさふいさふいさふい

とあひさふいさふいさふいさふいさふいさふい

のさふいさふいさふいさふいさふいさふいさふい

ふあひさふいさふいさふいさふいさふいさふい
細 源の相也チヨウ也三途川サンツウカハ

さふいさふいさふい

のさふいさふいさふいさふいさふいさふいさふい

さふいさふいさふいさふいさふいさふいさふい

さふいさふいさふいさふいさふいさふいさふい

さふいさふいさふいさふいさふいさふいさふい

又

三

あつはらに此の御事なするに御事細

大將の御事なするに御事細

大將の御事なするに御事細

大將の御事なするに御事細

御事細

御事細

御事細

御事細

御事細

御事細

御事細

御事細

御事細

御事細

御事細

御事細

御事細

御事細

御事細

御事細

御事細

御事細

御事細

御事細

御事細

御事細

御事細

御事細

御事細

御事細

御事細
先帝の御事也

あそちあそちさきや 其父其母の宮を令れ回るや

わやの語あそちさきや 其父其母の宮を令れ回るや

今八路りあそちさきや 其父其母の宮を令れ回るや

よ 細一交りあそちさきや 其父其母の宮を令れ回るや

と也 其父其母の宮を令れ回るや

うちりあそちさきや 其父其母の宮を令れ回るや

うちりあそちさきや 其父其母の宮を令れ回るや

うちりあそちさきや 其父其母の宮を令れ回るや

うちりあそちさきや 其父其母の宮を令れ回るや

うちりあそちさきや 其父其母の宮を令れ回るや

うちりあそちさきや 其父其母の宮を令れ回るや

うちりあそちさきや 其父其母の宮を令れ回るや

うちりあそちさきや 其父其母の宮を令れ回るや

うちりあそちさきや 其父其母の宮を令れ回るや

うちりあそちさきや 其父其母の宮を令れ回るや

うちりあそちさきや 其父其母の宮を令れ回るや

うちりあそちさきや 其父其母の宮を令れ回るや

うちりあそちさきや 其父其母の宮を令れ回るや

うちりあそちさきや 其父其母の宮を令れ回るや

Comptroller General

Handwritten text in cursive script, likely a letter or official document, covering the right page of the manuscript.

Handwritten header or title at the top of the left page.

Main body of handwritten text in cursive script on the left page, continuing from the right page.

河
細
酒

一

...

...

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, slightly yellowed paper. It consists of approximately 12 lines of text, with some lines starting with a small decorative flourish or initial. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language or dialect used.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged, slightly yellowed paper. It consists of approximately 12 lines of text, with some lines starting with a small decorative flourish or initial. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language or dialect used.

花
新の春のまはりて...
きりり 昇同

名跡をたゆまて...
第

ちおのまゝと絶え...
第

終りたるまはり...
細

あしりたるま...
細

ちちちちひて...
第

あしりたるま...
何 借

ちちちちひて...
細

ちおのまゝと絶え...
細

終りたるまはり...
第

あしりたるま...
第

あしりたるま...

あしりたるま...

あしりたるま...

あしりたるま...

あしりたるま...

あしりたるま...

あしりたるま...

あしりたるま...

あしりたるま...

あしりたるま...

あしりたるま...

あしりたるま...

及

さういふもたるとも

さういふはうらなひもさういふのさういふさういふも 果 さういふ

の度さういふもさういふも

さういふもさういふもさういふもさういふもさういふもさういふも

ぬ 細 お警方をさういふもさういふもさういふもさういふもさういふも

さういふもさういふも 果 さういふもさういふもさういふもさういふも

さういふもさういふも 果 さういふもさういふもさういふもさういふも

さういふもさういふもさういふもさういふもさういふもさういふも

さういふもさういふもさういふもさういふもさういふもさういふも

さういふもさういふも 細 さういふもさういふもさういふもさういふも

さういふもさういふも 果 さういふもさういふもさういふもさういふも

果 さういふもさういふもさういふもさういふもさういふも

はれのさういふもさういふもさういふもさういふも 果 さういふも

のさういふもさういふもさういふもさういふも 果 さういふも

さういふもさういふもさういふもさういふも 果 さういふも

さういふもさういふもさういふもさういふも 果 さういふも

さういふもさういふも 果 さういふもさういふもさういふも

女 果 さういふもさういふもさういふもさういふも

むむむ 果 さういふもさういふもさういふも

さういふもさういふも 果 さういふもさういふも

さういふもさういふも 果 さういふもさういふも

さういふもさういふも 果 さういふもさういふも

果 さういふもさういふもさういふも

さういふもさういふも 果 さういふもさういふも

小果のついで玉盤等にほつとつて一鉢にのみおのたまやカキのらたま

らく宮にへ給く 細式の宮也

しつとつておのたまをねてつと給くはほつとつとつとつとつとつとつと

給 果大なる大集院よりつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

してあるはつとつと父官のの給也

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

のつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

中お侍臣ア大捕ちと歩車とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

舞の志の如く人形をいひ終へし也と具しきり終也

父の活くもとをいひし也 果たぬ人出むりていふ

たぬ男方をいふともの也去あつて思ひもていふ終也

人のいふも終へし也あつていふもあつていふもあ

宮のあつていふもあつていふもあつていふもあ

母のいふもあつていふもあつていふもあ

果たぬ存命の中上意終母のいふもあつていふもあ

かのおもていふもあつていふもあつていふもあ

いふもあつていふもあつていふもあつていふもあ

いふもあつていふもあつていふもあつていふもあ

いふもあつていふもあつていふもあつていふもあ

いふもあつていふもあつていふもあつていふもあ

いふもあつていふもあつていふもあつていふもあ

いふもあつていふもあつていふもあつていふもあ

いふもあつていふもあつていふもあつていふもあ

いふもあつていふもあつていふもあつていふもあ

いふもあつていふもあつていふもあつていふもあ

いふもあつていふもあつていふもあつていふもあ

いふもあつていふもあつていふもあつていふもあ

いふもあつていふもあつていふもあつていふもあ

いふもあつていふもあつていふもあつていふもあ

いふもあつていふもあつていふもあつていふもあ

いふもあつていふもあつていふもあつていふもあ

りし影もあはれあはく 果 影君のよもをわらわぬあつらひ
 影君にりこらにのりたかきひたかきうらなうとてきしりたひ
 日れあつてくははあうらうのたひしあきしうらなう

果 葉の軒ハカにたかき思オモはる也ま枝エのつらうまをさたり

河 橋皮色 細 あつたうらうまをさたり

今おきて寄る影もあはれあつらひ 枝乃そしりたれき日ひの

果 影君寄るまを思はれうらうして 枝乃影君とさう 國之

名 影にりしははる松人まあはらうらうのつらう因つらうあつた

ましあつたうらうしりしあつたうらうてあつたあつたあつた

まきうらうあつたうらうてあつたあつたあつたあつた

果 影にりしははる松人まあはらうらうのつらう因つらうあつた

まきうらうあつたうらうてあつたあつたあつたあつた

まきうらうあつたうらうてあつたあつたあつたあつた
 てあつたあつた

まきうらうあつたうらうてあつたあつたあつたあつた

まきうらうあつたうらうてあつたあつたあつたあつた

果 影にりしははる松人まあはらうらうのつらう因つらうあつた

まきうらうあつた

まきうらうあつたうらうてあつたあつたあつたあつた

果 影にりしははる松人まあはらうらうのつらう因つらうあつた

まきうらうあつたうらうてあつたあつたあつたあつた

まきうらうあつたうらうてあつたあつたあつたあつた

まきうらうあつたうらうてあつたあつたあつたあつた

まきうらうあつたうらうてあつたあつたあつたあつた

おぼしおとくおとあてたさしうも思まへに終つれとあつら

己の おぼしおとく 細 源のこも也 果母あまのの初也

ひこのあしおとくたたりけんら 敵 史記 一人敵 論語

距敵 仇 史記 吳一

おしそおのちゆれと女侍もさへもたれしちるあへ

かへるし終ししと 元 冷泉院の女侍或る宮女は女し如

おまへに 西宮 女侍中あまのち終つるものもあまもや

女侍中あまのち終つて或る宮女は女侍中あまもや

つちいし終つるものもや

それの侍中たしつたあまのち終つるものもあまのち終つるものも

おあつらおとくおとあてたさしうも思まへに終つれとあつら

おあつらおとくおとあてたさしうも思まへに終つれとあつら

おあつらおとくおとあてたさしうも思まへに終つれとあつら

おあつらおとくおとあてたさしうも思まへに終つれとあつら

おあつらおとくおとあてたさしうも思まへに終つれとあつら

おあつらおとくおとあてたさしうも思まへに終つれとあつら

おあつらおとくおとあてたさしうも思まへに終つれとあつら

おあつらおとくおとあてたさしうも思まへに終つれとあつら

おあつらおとくおとあてたさしうも思まへに終つれとあつら

おあつらおとくおとあてたさしうも思まへに終つれとあつら

おあつらおとくおとあてたさしうも思まへに終つれとあつら

おあつらおとくおとあてたさしうも思まへに終つれとあつら

おあつらおとくおとあてたさしうも思まへに終つれとあつら

おあつらおとくおとあてたさしうも思まへに終つれとあつら

おあつらおとくおとあてたさしうも思まへに終つれとあつら

おあつらおとくおとあてたさしうも思まへに終つれとあつら

おあつらおとくおとあてたさしうも思まへに終つれとあつら

おのれも〜流る 早或るのちた〜

つらやけ引舞高流り舞

おのれも〜流る 早或るのちた〜

おのれも〜流る 早或るのちた〜

おのれも〜流る 早或るのちた〜

おのれも〜流る 早或るのちた〜

おのれも〜流る 早或るのちた〜

おのれも〜流る 早或るのちた〜

おのれも〜流る 早或るのちた〜

おのれも〜流る 早或るのちた〜

おのれも〜流る 早或るのちた〜

おのれも〜流る 早或るのちた〜

おのれも〜流る 早或るのちた〜

おのれも〜流る 早或るのちた〜

おのれも〜流る 早或るのちた〜

おのれも〜流る 早或るのちた〜

おのれも〜流る 早或るのちた〜

おのれも〜流る 早或るのちた〜

サカサキ 日本紀

おのれも〜流る 早或るのちた〜


~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

将の将也

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

はらむらひあちのう 并 ちおのらう はらむらひあちのう 治定
しつこさ 細 今 サ ニ 堪 サ あり 三 ちのらう はらむらひあちのう
治定 しつこさ 並 ちのらう はらむらひあちのう 治定
しつこさ 並 ちのらう はらむらひあちのう 治定
しつこさ 並 ちのらう はらむらひあちのう 治定
しつこさ 並 ちのらう はらむらひあちのう 治定
しつこさ 並 ちのらう はらむらひあちのう 治定
しつこさ 並 ちのらう はらむらひあちのう 治定
しつこさ 並 ちのらう はらむらひあちのう 治定
しつこさ 並 ちのらう はらむらひあちのう 治定
しつこさ 並 ちのらう はらむらひあちのう 治定
しつこさ 並 ちのらう はらむらひあちのう 治定
しつこさ 並 ちのらう はらむらひあちのう 治定

あふいそ あふいそ あふいそ あふいそ

あふいそ あふいそ あふいそ あふいそ あふいそ あふいそ あふいそ

あふいそ あふいそ あふいそ あふいそ あふいそ あふいそ あふいそ

あふいそ あふいそ あふいそ あふいそ あふいそ あふいそ あふいそ

あふいそ あふいそ あふいそ あふいそ あふいそ あふいそ あふいそ

あふいそ あふいそ あふいそ あふいそ あふいそ あふいそ あふいそ

あふいそ あふいそ あふいそ あふいそ あふいそ あふいそ あふいそ

あつたはるらとわとあつたはるら 某原の筑北にあらたて

くつたことあり 某原後ちるるやとて也 某回

あつたはるらとわとあつたはるら 某原の筑北にあらたて

あつたはるらとわとあつたはるら 某原の筑北にあらたて

あつたはるらとわとあつたはるら 某原の筑北にあらたて

あつたはるらとわとあつたはるら 某原の筑北にあらたて

あつたはるらとわとあつたはるら 某原の筑北にあらたて

あつたはるらとわとあつたはるら 某原の筑北にあらたて

あつたはるらとわとあつたはるら 某原の筑北にあらたて

あつたはるらとわとあつたはるら 某原の筑北にあらたて

あつたはるらとわとあつたはるら 某原の筑北にあらたて

あつたはるらとわとあつたはるら 某原の筑北にあらたて

あつたはるらとわとあつたはるら 某原の筑北にあらたて

あつたはるらとわとあつたはるら 某原の筑北にあらたて

あつたはるらとわとあつたはるら 某原の筑北にあらたて

あつたはるらとわとあつたはるら 某原の筑北にあらたて

あつたはるらとわとあつたはるら 某原の筑北にあらたて

あつたはるらとわとあつたはるら 某原の筑北にあらたて

あつたはるらとわとあつたはるら 某原の筑北にあらたて

あつたはるらとわとあつたはるら 某原の筑北にあらたて

あつたはるらとわとあつたはるら 某原の筑北にあらたて

あつたはるらとわとあつたはるら 某原の筑北にあらたて

あつたはるらとわとあつたはるら 某原の筑北にあらたて

んともおほいそはあらん 采原又内府乃る也

おほやきんとうちあめのもりゆか人きるくやらあるとこひ
みくして 采内侍書に下下此息女たちの系流新多之

河重家 尚侍右大臣豊成室 尚侍深子中納言右大臣氏
長良女

宗室

辛くうて多くせむも終 采原八采の皇女玉登芳入内し
終るるん

おほこたううあつとせぬしやくそははとんて一たつとひ
めくはちのめさつらと終 細 乃物そく也 采は時をさ

らそ正月十四日又日乃間とらうるん

かこつめおとつたらんはたおのつらひひつらひ
細 源内大臣也 采原又内府乃るるん

ひらへさくそひ終るるん

宰相中納言んころよ 細 夕妻也 乃夕妻内裡のほんけ

ひちもの終 采原漆忠にうめてはとる也

んきくひすの終 采あろはくひちも入内乃時とる終也

さうとのさんたちとくはわらんとはとひつせりしうり
てりてらうくつと終まよいとめてた 細 相末もと也

采 玉登芳の兄中をよめるん

兼吉原のむんくおりににはつわひりたり 采紫雲原

のうらふ仁壽原そのうらふ兼吉原あり内侍書
うらふひかに兼つらに終原陣みく典侍系のはし

と終して主上のは覺んてくまひ夜裳もとらとら
家とあり終るるん内裏は河内もとらとら

也 兼 紫雲原のうらふ仁壽原ありそのうらふある

原也終るるのりうとれお終るる也 采兼吉原あり

のつらうともや玉警考ツツコれ居るとつらうひもあつても内侍無ツツコく
 こひすい系時縁を乃降ツツコりてあつて内侍一人出あひ
 て内侍のようくと奏ツツコすをさうと云は流きくまひ列女會
 の終未終りてツツコ退出ツツコとする也は物縁のむつらうの
 て内とに終へてあつてそとやうせん乃即んくあも
 こぬは系考つらうくつらうと花鳥流同

西宮女侍ありくれあつてつらうのるあつてつらう

武ツツコ宮の自ツツコ女也冷ツツコ水流女侍也 細 苗代ツツコの女侍也

ツツコ系考居のつらうくれあつて東西乃つらうくつらうしツツコ舞ツツコりあ
 つらうとれ女侍ありつらうくつらう也 於武宮宮女
 女侍也下の羽はこれ宮乃女侍とあり同く也

居のつらうあつてつらうとつらうくつらうくつらう
 くるもくつらうつらうつらうつらうつらうつらう

可ツツコなる也 細 玉警考とつらうとれ居あつてつらうとつらうの地と

つらうつらうつらう 系考この海あつてつらうつらう
 左てあつても宮乃女侍あつてつらうのつらうとつらう
 へつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

あつてつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう
 とも 細 苗代ツツコの女侍とつらうつらうつらうつらうつらう
 つらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

伊宮ツツコの女侍 細 林ツツコ女侍也 於ツツコ居あつてつらうつらうつらう
 自ツツコ女侍

これ宮ツツコの女侍 細 武宮ツツコの自ツツコ女侍系考居の西よつらう
 終ツツコ女侍也

たのむつらうの女侍ありつらうつらうつらう 系考つらうつらうつらうつらう
 系考 細 乃幸ツツコたつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

有る人也 此 蘇我御見系系為方は人惟ととる
宗 其 所のたを乃乃息女ととる

あては中細言宰相乃女ととる 細 由人系為不我之 是 是の女也

里人乃乃はまことととる 細 是の女也 是 是の女也 是 是の女也

くさありこちたてめてととる 宗 如許之也

宗 是の女也 宗 是の女也 宗 是の女也

あては中細言宰相乃女ととる 宗 是の女也 宗 是の女也

宗 是の女也 宗 是の女也 宗 是の女也

宗 是の女也 宗 是の女也 宗 是の女也

宗 是の女也 宗 是の女也 宗 是の女也

宮の女也 宗 是の女也 宗 是の女也 宗 是の女也

中宮の女也 宗 是の女也 宗 是の女也 宗 是の女也

はる系院はとこのまひの女也 宗 是の女也 宗 是の女也

宗 是の女也 宗 是の女也 宗 是の女也

ととる系院はとこのまひの女也 宗 是の女也 宗 是の女也

宗 是の女也 宗 是の女也 宗 是の女也

まま宮の女也 宗 是の女也 宗 是の女也 宗 是の女也

あては中細言宰相乃女ととる 宗 是の女也 宗 是の女也

宗 是の女也 宗 是の女也 宗 是の女也

行はる系院はとこのまひの女也 宗 是の女也 宗 是の女也

ととる系院はとこのまひの女也 宗 是の女也 宗 是の女也

ととる系院はとこのまひの女也 宗 是の女也 宗 是の女也

ととる系院はとこのまひの女也 宗 是の女也 宗 是の女也

ワケに於ける八郎一太郎のむすひとていふは

段仕のおもひ此来子也母ハ栞木同也 舞マユハ大層の息也

むすひとていふは南股とていふ南股ミナモトとていふは

よや 細 南股とていふ

大將殿の大御一太郎とていふは

舞マユ志嬌子母ハ或ア母のこやれは女とていふは

とていふはたれとていふは也 細 舞マユハナリとていふは

たりしとていふは也 舞マユ志嬌子の息也とていふは

ちかひとていふは

いふとていふはとていふはとていふはとていふは

らひとていふはとていふはとていふはとていふは

そいふとていふはとていふはとていふはとていふは

まゝとていふはとていふはとていふはとていふは

このはつらひなり神くらおほくのまゝとていふは

ものいらあひつとていふはとていふは 細 舞マユハ

舞マユのそいふはとていふはとていふはとていふは

くらとていふはとていふはとていふはとていふは

たぬるもの此とていふはとていふは

物モノとていふはとていふはとていふはとていふは

つとていふはとていふは

らとていふはとていふはとていふはとていふは

をヲとていふはとていふはとていふはとていふは

しとていふはとていふはとていふはとていふは

わとていふはとていふはとていふはとていふは

ちとていふはとていふはとていふはとていふは

いんご女房へ可憐也

みるおれいことうりもさうさひわりのさうさうとあつひさうん
あつひさうりしうあつひさうりし

休のいしあつひさうりしあつひさうりしあつひさうりしあつひさうりし
いんご女房へ可憐也 昇向まむ警言付
いんご女房へ可憐也 昇向まむ警言付
いんご女房へ可憐也 昇向まむ警言付
いんご女房へ可憐也 昇向まむ警言付

尚休のいんご女房へ可憐也 昇向まむ警言付
事やうい

いんご女房へ可憐也 昇向まむ警言付
いんご女房へ可憐也 昇向まむ警言付
いんご女房へ可憐也 昇向まむ警言付
いんご女房へ可憐也 昇向まむ警言付

いんご女房へ可憐也 昇向まむ警言付

いんご女房へ可憐也 昇向まむ警言付

いんご女房へ可憐也 昇向まむ警言付

いんご女房へ可憐也 昇向まむ警言付

いんご女房へ可憐也 昇向まむ警言付

いんご女房へ可憐也 昇向まむ警言付

いんご女房へ可憐也 昇向まむ警言付

あつたことのおろむや

あつたことのおろむや 細 玉つらつら 細

はな 細 玉つらつら 細 のき 細 のき 細 のき 細

はな 細 玉つらつら 細 のき 細 のき 細 のき 細 糸

の女房 細 玉つらつら 細 のき 細 のき 細 のき 細 糸

糸

あつたことのおろむや 細 玉つらつら 細 のき 細 のき 細 のき 細

あつたことのおろむや 細 玉つらつら 細 のき 細 のき 細 のき 細

あつたことのおろむや 細 玉つらつら 細 のき 細 のき 細 のき 細

あつたことのおろむや 細 玉つらつら 細 のき 細 のき 細 のき 細

あつたことのおろむや 細 玉つらつら 細 のき 細 のき 細 のき 細

あつたことのおろむや 細 玉つらつら 細 のき 細 のき 細 のき 細

糸

あつたことのおろむや 細 玉つらつら 細 のき 細 のき 細 のき 細

あつたことのおろむや 細 玉つらつら 細 のき 細 のき 細 のき 細

あつたことのおろむや 細 玉つらつら 細 のき 細 のき 細 のき 細

あつたことのおろむや 細 玉つらつら 細 のき 細 のき 細 のき 細

糸

あつたことのおろむや 細 玉つらつら 細 のき 細 のき 細 のき 細

あつたことのおろむや 細 玉つらつら 細 のき 細 のき 細 のき 細

あつたことのおろむや 細 玉つらつら 細 のき 細 のき 細 のき 細

あつたことのおろむや 細 玉つらつら 細 のき 細 のき 細 のき 細

あつたことのおろむや 細 玉つらつら 細 のき 細 のき 細 のき 細

糸

正統のう

大徳ははつてはいつてもさあつ〜も ^某多と志廉
 小やも格とありと略之或説云陽のつ南原ととき
^凡大と侯府の曹子もつ〜
 それらるるをいふ〜

^某そのつひつていふ〜
 せもいふ也 ^細大徳のつ〜

大徳もつひつ〜
 其のつひつ〜
 くるつひつ〜
 ぬらつひつ〜
 し〜
 也

これのつひつ〜
 してつひつ〜
 大徳〜
 ともつひつ〜

けしつひつ〜
 ありつひつ〜
 のら ^{（？）} 迷懐のらもつひつ〜
 ともつひつ〜
 今つひつ〜

^古 百もつひつ〜
 うつひつ〜
 中つひつ〜
 まつひつ〜

あやしくもひのつかのちりちりいれ 細チカラガヤク 勅を也 葉 少の序詞也

内侍普のほつりくく終らぬとの終は詞也

うらみもいもいもあつりひひも終りんとあつりんとあつりんとあつり

ま終らぬとあつりとのあるは 葉 お警房入内一終らぬ後三位下位

一終りとの終もま終りとの終りとの終りとの終り

とまり 葉 内侍普のまをたつり 細 お警房三位下位 叙

とまりのまをたつり

く終らぬとあつりとの終りとの終り 葉 おももも警房の

く終らぬとあつりとの終りとの終りとの終りとの終り

のらもももも警房のまをたつり 細 お警房

やまもももも警房のまをたつり 細 お警房

あつりとの終りとの終りとの終りとの終りとの終り

葉 内門はちやも警房のまをたつり 細 お警房

あつりとの終りとの終りとの終りとの終りとの終り

あつりとの終りとの終りとの終りとの終りとの終り

あつりとの終りとの終りとの終りとの終りとの終り

あつりとの終りとの終りとの終りとの終りとの終り

あつりとの終りとの終りとの終りとの終りとの終り

河方 紫のまをたつりとの終りとの終りとの終りとの終り

葉 紫のまをたつりとの終りとの終りとの終りとの終り

あつりとの終りとの終りとの終りとの終りとの終り

あつりとの終りとの終りとの終りとの終りとの終り

あつりとの終りとの終りとの終りとの終りとの終り

あつりとの終りとの終りとの終りとの終りとの終り

あつりとの終りとの終りとの終りとの終りとの終り

よにたれどもお警方とのらるるにんは海をいふは御也

辨 以上の御也

きくひ^{後介}あやあひるひるひりて 辨 係はよ

るよのきくひ行らあはうりてお警方のちりてありしを

わのひうりてはうりや路也 細 六事係よきこくわ

あうりてはうりてはうりてはうりてはうりてはうりては

る也

宮はうのらうりてあひるひるひりてはうりてはうりては

い多れは^{才少}とあひるひるひりてはうりてはうりてはうりては

あうりてはうりてはうりてはうりてはうりてはうりては

らうりてはうりてはうりてはうりてはうりてはうりては

の係^果あひるひるひりてはうりてはうりてはうりてはうりては

あひるひるひりてはうりてはうりてはうりてはうりては

細 建行もらよとのらもあひるひるひりてはうりてはうりては

なもとの分とちうりてはうりてはうりてはうりてはうりては

らうりてはうりてはうりてはうりてはうりてはうりては

い^果うりてはうりてはうりてはうりてはうりてはうりては

るにが階^細うりてはうりてはうりてはうりてはうりては

と^細うりてはうりてはうりてはうりてはうりてはうりては

向^果後^細うりてはうりてはうりてはうりてはうりては

とあひるひるひりてはうりてはうりてはうりてはうりては

それ^果うりてはうりてはうりてはうりてはうりてはうりては

は^果の西^細うりてはうりてはうりてはうりてはうりては

の^果あひるひるひりてはうりてはうりてはうりてはうりては

らうりてはうりてはうりてはうりてはうりてはうりては

かたを致すはく〜^細事いふは^細すくなくも〜
けいひやく〜^細けいひやく〜^細あはれに〜
すのつらき〜^細あはれに〜
あつちの〜^細あはれに〜
あつちの〜^細あはれに〜
あつちの〜^細あはれに〜
あつちの〜^細あはれに〜
あつちの〜^細あはれに〜
あつちの〜^細あはれに〜

あつちの〜^細あはれに〜
あつちの〜^細あはれに〜
あつちの〜^細あはれに〜
あつちの〜^細あはれに〜
あつちの〜^細あはれに〜
あつちの〜^細あはれに〜
あつちの〜^細あはれに〜
あつちの〜^細あはれに〜

あつちの〜^細あはれに〜
あつちの〜^細あはれに〜

あつちの〜^細あはれに〜
あつちの〜^細あはれに〜

あつちの〜^細あはれに〜
あつちの〜^細あはれに〜

あつちの〜^細あはれに〜
あつちの〜^細あはれに〜

あつちの〜^細あはれに〜
あつちの〜^細あはれに〜

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on the left page of an open manuscript. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on the right page of an open manuscript. The text is dense and fills most of the page.

素より人々を驚かすは、
ありふること也

素より人々を驚かすは、
ありふること也

細

素より人々を驚かすは、
ありふること也

案

素より人々を驚かすは、
ありふること也

細

素より人々を驚かすは、
ありふること也

案

素より人々を驚かすは、
ありふること也

細

素より人々を驚かすは、
ありふること也

素より人々を驚かすは、
ありふること也

案

案

々々々々々々々々々々 細 式乃宮也 果 式乃宮也 始々々々
 々々々々々々々々々々 細 式乃宮也 果 式乃宮也 始々々々
 一 終 二月 果 式乃宮也 果 式乃宮也 始々々々
 の 式乃宮也

々々々々々々々々々々 果 式乃宮也 果 式乃宮也 始々々々
 一 終 二月 果 式乃宮也 果 式乃宮也 始々々々
 の 式乃宮也

々々々々々々々々々々 果 式乃宮也 果 式乃宮也 始々々々
 一 終 二月 果 式乃宮也 果 式乃宮也 始々々々
 の 式乃宮也

々々々々々々々々々々 果 式乃宮也 果 式乃宮也 始々々々
 一 終 二月 果 式乃宮也 果 式乃宮也 始々々々
 の 式乃宮也

々々々々々々々々々々 果 式乃宮也 果 式乃宮也 始々々々
 一 終 二月 果 式乃宮也 果 式乃宮也 始々々々
 の 式乃宮也

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

ちとあかしくつれとあゝあらたなるもあはれしや

葎コホセツキヨのくろくも 細 勝月也

月夜也 侍也 高世なる也

あゝあらたなるもあはれしや 葎 朧月也

昔のこともあはれしや 高世なる也

あゝあらたなるもあはれしや 葎 朧月也

とも 葎 高世なるもあはれしや

とも 葎 高世なるもあはれしや

とも 葎 高世なるもあはれしや

とも 葎 高世なるもあはれしや

とも 葎 高世なるもあはれしや

とも 葎 高世なるもあはれしや

とも 葎 高世なるもあはれしや

とも 葎 高世なるもあはれしや

とも 葎 高世なるもあはれしや

とも 葎 高世なるもあはれしや

とも 葎 高世なるもあはれしや

とも 葎 高世なるもあはれしや

とも 葎 高世なるもあはれしや

とも 葎 高世なるもあはれしや

とも 葎 高世なるもあはれしや

とも 葎 高世なるもあはれしや

とも 葎 高世なるもあはれしや

とも 葎 高世なるもあはれしや

とも 葎 高世なるもあはれしや

とも 葎 高世なるもあはれしや

とも 葎 高世なるもあはれしや

とも 葎 高世なるもあはれしや

とも 葎 高世なるもあはれしや

とも 葎 高世なるもあはれしや

奇ハに平シ志タ多加カ戸ハ加カ毛モ佐サ戸ヘ支シ井キ留ル波ハ良ラ乃ノ伊イ

乃也多子毛波子孫奈加利曾於比毛須加
孫也百孫奈加利曾也

翠

此の事の時をんあうり玉響子といふ時也

乃後まうらうひららひのいれもあまあうりまはる

ひともあとうらひりもあまあまあまあまあまあま

とまゝにまはれてもあまあまあまあまあまあま

也後注杜持傳將帥和隆士卒見藻注言歡悦如見

之戲於水藻也とありとらなるく

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あ

あ

しるすもあらねどあはれむるは

の事おむすは

師説同 毎 息子のやうに
あはれむるは

あはれむるは

あはれむるは

あはれむるは

あはれむるは

あはれむるは

あはれむるは

あはれむるは

あはれむるは

あはれむるは

あはれむるは

あはれむるは

あはれむるは

あはれむるは

あはれむるは

あはれむるは

あはれむるは

あはれむるは

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

カ

カ

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

カ

カ



Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. Several characters are written in a larger, bolder style, possibly indicating emphasis or specific markers. The script is dense and fluid, with many overlapping strokes.

Handwritten text in a cursive script, similar to the left page. It consists of about 12 lines of text. The script is highly stylized and appears to be a form of shorthand or a specific dialect. There are several larger characters interspersed throughout the lines. The overall appearance is that of a continuous flow of text written quickly.

Handwritten characters at the top of the right page, possibly a page number or a section marker.

Handwritten characters in the middle of the right page, possibly a section marker or a specific note.

Small handwritten characters on the right edge of the page.

Small handwritten characters on the right edge of the page.

勢のついでに常はまう路と相まらぬとてし行也  
 ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也  
 ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也  
 ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也

ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也  
 ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也  
 ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也  
 ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也

ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也  
 ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也  
 ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也  
 ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也

玉盤の息と延生也 タンジヤク

并 徳成廿八歳の十二月也玉盤勢舞

ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也  
 ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也  
 ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也  
 ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也

ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也  
 ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也  
 ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也  
 ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也

ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也  
 ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也  
 ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也  
 ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也

ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也  
 ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也  
 ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也  
 ちのついでに常はまう路と相まらぬとてし行也

1. 第一ノ章  
 2. 第二ノ章  
 3. 第三ノ章  
 4. 第四ノ章  
 5. 第五ノ章  
 6. 第六ノ章  
 7. 第七ノ章  
 8. 第八ノ章  
 9. 第九ノ章  
 10. 第十ノ章  
 11. 第十一ノ章  
 12. 第十二ノ章  
 13. 第十三ノ章  
 14. 第十四ノ章  
 15. 第十五ノ章  
 16. 第十六ノ章  
 17. 第十七ノ章  
 18. 第十八ノ章  
 19. 第十九ノ章  
 20. 第二十ノ章  
 21. 第二十一ノ章  
 22. 第二十二ノ章  
 23. 第二十三ノ章  
 24. 第二十四ノ章  
 25. 第二十五ノ章  
 26. 第二十六ノ章  
 27. 第二十七ノ章  
 28. 第二十八ノ章  
 29. 第二十九ノ章  
 30. 第三十ノ章  
 31. 第三十一ノ章  
 32. 第三十二ノ章  
 33. 第三十三ノ章  
 34. 第三十四ノ章  
 35. 第三十五ノ章  
 36. 第三十六ノ章  
 37. 第三十七ノ章  
 38. 第三十八ノ章  
 39. 第三十九ノ章  
 40. 第四十ノ章  
 41. 第四十一ノ章  
 42. 第四十二ノ章  
 43. 第四十三ノ章  
 44. 第四十四ノ章  
 45. 第四十五ノ章  
 46. 第四十六ノ章  
 47. 第四十七ノ章  
 48. 第四十八ノ章  
 49. 第四十九ノ章  
 50. 第五十ノ章  
 51. 第五十一ノ章  
 52. 第五十二ノ章  
 53. 第五十三ノ章  
 54. 第五十四ノ章  
 55. 第五十五ノ章  
 56. 第五十六ノ章  
 57. 第五十七ノ章  
 58. 第五十八ノ章  
 59. 第五十九ノ章  
 60. 第六十ノ章  
 61. 第六十一ノ章  
 62. 第六十二ノ章  
 63. 第六十三ノ章  
 64. 第六十四ノ章  
 65. 第六十五ノ章  
 66. 第六十六ノ章  
 67. 第六十七ノ章  
 68. 第六十八ノ章  
 69. 第六十九ノ章  
 70. 第七十ノ章  
 71. 第七十一ノ章  
 72. 第七十二ノ章  
 73. 第七十三ノ章  
 74. 第七十四ノ章  
 75. 第七十五ノ章  
 76. 第七十六ノ章  
 77. 第七十七ノ章  
 78. 第七十八ノ章  
 79. 第七十九ノ章  
 80. 第八十ノ章  
 81. 第八十一ノ章  
 82. 第八十二ノ章  
 83. 第八十三ノ章  
 84. 第八十四ノ章  
 85. 第八十五ノ章  
 86. 第八十六ノ章  
 87. 第八十七ノ章  
 88. 第八十八ノ章  
 89. 第八十九ノ章  
 90. 第九十ノ章  
 91. 第九十一ノ章  
 92. 第九十二ノ章  
 93. 第九十三ノ章  
 94. 第九十四ノ章  
 95. 第九十五ノ章  
 96. 第九十六ノ章  
 97. 第九十七ノ章  
 98. 第九十八ノ章  
 99. 第九十九ノ章  
 100. 第一百ノ章

1. 第一ノ章  
 2. 第二ノ章  
 3. 第三ノ章  
 4. 第四ノ章  
 5. 第五ノ章  
 6. 第六ノ章  
 7. 第七ノ章  
 8. 第八ノ章  
 9. 第九ノ章  
 10. 第十ノ章  
 11. 第十一ノ章  
 12. 第十二ノ章  
 13. 第十三ノ章  
 14. 第十四ノ章  
 15. 第十五ノ章  
 16. 第十六ノ章  
 17. 第十七ノ章  
 18. 第十八ノ章  
 19. 第十九ノ章  
 20. 第二十ノ章  
 21. 第二十一ノ章  
 22. 第二十二ノ章  
 23. 第二十三ノ章  
 24. 第二十四ノ章  
 25. 第二十五ノ章  
 26. 第二十六ノ章  
 27. 第二十七ノ章  
 28. 第二十八ノ章  
 29. 第二十九ノ章  
 30. 第三十ノ章  
 31. 第三十一ノ章  
 32. 第三十二ノ章  
 33. 第三十三ノ章  
 34. 第三十四ノ章  
 35. 第三十五ノ章  
 36. 第三十六ノ章  
 37. 第三十七ノ章  
 38. 第三十八ノ章  
 39. 第三十九ノ章  
 40. 第四十ノ章  
 41. 第四十一ノ章  
 42. 第四十二ノ章  
 43. 第四十三ノ章  
 44. 第四十四ノ章  
 45. 第四十五ノ章  
 46. 第四十六ノ章  
 47. 第四十七ノ章  
 48. 第四十八ノ章  
 49. 第四十九ノ章  
 50. 第五十ノ章  
 51. 第五十一ノ章  
 52. 第五十二ノ章  
 53. 第五十三ノ章  
 54. 第五十四ノ章  
 55. 第五十五ノ章  
 56. 第五十六ノ章  
 57. 第五十七ノ章  
 58. 第五十八ノ章  
 59. 第五十九ノ章  
 60. 第六十ノ章  
 61. 第六十一ノ章  
 62. 第六十二ノ章  
 63. 第六十三ノ章  
 64. 第六十四ノ章  
 65. 第六十五ノ章  
 66. 第六十六ノ章  
 67. 第六十七ノ章  
 68. 第六十八ノ章  
 69. 第六十九ノ章  
 70. 第七十ノ章  
 71. 第七十一ノ章  
 72. 第七十二ノ章  
 73. 第七十三ノ章  
 74. 第七十四ノ章  
 75. 第七十五ノ章  
 76. 第七十六ノ章  
 77. 第七十七ノ章  
 78. 第七十八ノ章  
 79. 第七十九ノ章  
 80. 第八十ノ章  
 81. 第八十一ノ章  
 82. 第八十二ノ章  
 83. 第八十三ノ章  
 84. 第八十四ノ章  
 85. 第八十五ノ章  
 86. 第八十六ノ章  
 87. 第八十七ノ章  
 88. 第八十八ノ章  
 89. 第八十九ノ章  
 90. 第九十ノ章  
 91. 第九十一ノ章  
 92. 第九十二ノ章  
 93. 第九十三ノ章  
 94. 第九十四ノ章  
 95. 第九十五ノ章  
 96. 第九十六ノ章  
 97. 第九十七ノ章  
 98. 第九十八ノ章  
 99. 第九十九ノ章  
 100. 第一百ノ章

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 15 lines of dense cursive writing.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 15 lines of dense cursive writing, continuing from the previous page.

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



わがこゝろ

あふはるのささぎの葉をわがこゝろにまいて

あふはるのささぎの葉をわがこゝろにまいて

あふはるのささぎの葉をわがこゝろにまいて

あふはるのささぎの葉をわがこゝろにまいて

あふはるのささぎの葉をわがこゝろにまいて

あふはるのささぎの葉をわがこゝろにまいて

あふはるのささぎの葉をわがこゝろにまいて

あふはるのささぎの葉をわがこゝろにまいて

あふはるのささぎの葉をわがこゝろにまいて

あふはるのささぎの葉をわがこゝろにまいて

あふはるのささぎの葉をわがこゝろにまいて

あふはるのささぎの葉をわがこゝろにまいて

22

23

24

25

1. 〆  
 2. 〆  
 3. 〆  
 4. 〆  
 5. 〆  
 6. 〆  
 7. 〆  
 8. 〆  
 9. 〆  
 10. 〆  
 11. 〆  
 12. 〆  
 13. 〆  
 14. 〆  
 15. 〆  
 16. 〆  
 17. 〆  
 18. 〆  
 19. 〆  
 20. 〆  
 21. 〆  
 22. 〆  
 23. 〆  
 24. 〆  
 25. 〆  
 26. 〆  
 27. 〆  
 28. 〆  
 29. 〆  
 30. 〆  
 31. 〆  
 32. 〆  
 33. 〆  
 34. 〆  
 35. 〆  
 36. 〆  
 37. 〆  
 38. 〆  
 39. 〆  
 40. 〆  
 41. 〆  
 42. 〆  
 43. 〆  
 44. 〆  
 45. 〆  
 46. 〆  
 47. 〆  
 48. 〆  
 49. 〆  
 50. 〆  
 51. 〆  
 52. 〆  
 53. 〆  
 54. 〆  
 55. 〆  
 56. 〆  
 57. 〆  
 58. 〆  
 59. 〆  
 60. 〆  
 61. 〆  
 62. 〆  
 63. 〆  
 64. 〆  
 65. 〆  
 66. 〆  
 67. 〆  
 68. 〆  
 69. 〆  
 70. 〆  
 71. 〆  
 72. 〆  
 73. 〆  
 74. 〆  
 75. 〆  
 76. 〆  
 77. 〆  
 78. 〆  
 79. 〆  
 80. 〆  
 81. 〆  
 82. 〆  
 83. 〆  
 84. 〆  
 85. 〆  
 86. 〆  
 87. 〆  
 88. 〆  
 89. 〆  
 90. 〆  
 91. 〆  
 92. 〆  
 93. 〆  
 94. 〆  
 95. 〆  
 96. 〆  
 97. 〆  
 98. 〆  
 99. 〆  
 100. 〆

26

27

28

